

臍ヘルニアの圧迫療法について

生まれてすぐの乳児の腸が筋肉の隙間から飛び出し、おへそが膨隆した状態を**臍ヘルニア**と言います。

へその皮膚の緩み・飛び出しを防ぐため、おへそを綿球やスポンジで押さえテープで固定する「臍ヘルニア圧迫療法」が行われています。

日本小児外科学会によると、臍ヘルニアは5～10人に1人の割合で見られ、生後3ヶ月ごろまでに大きくなり、多くの場合、筋肉が発達してくる1歳頃までに腸などの飛び出しは治ります。

しかし、臍ヘルニアだった乳児のほとんどは、へその皮膚が緩んで皮膚が飛び出したままのいわゆる「**でべそ**」（臍ヘルニアの後の臍皮膚が余剰したもの）となります。

当クリニックでは「**でべそ**」を予防するために圧迫療法を4か月以内（生後1-2か月）におこないます。

圧迫に使用する用具は、インターネットや、当クリニック最寄りの薬局でも購入可能です。（3か月分/3500円前後）。

臍ヘルニアについて気になる方がおりましたら、お気軽にご相談ください。